日川高校図書館

図書館通信　vol. 2

こんにちは♪ 先日、**「本屋大賞」**の発表がありました！ 本屋大賞というのは、全国の書店員がいちばん売りたい本を選ぶ賞で、エンターテイメント小説の賞としてはかなり信頼できる賞になっています。ちなみにこれまでの受賞作は、**小川洋子『博士の愛した数式』**、**恩田陸『夜のピクニック』**、**リリー・フランキー『東京タワー』**、**佐藤多佳子『一瞬の風になれ』**、**伊坂幸太郎『ゴールデンスランバー』**、**湊かなえ『告白』**、**冲方丁『天地明察』**、**東川篤哉『謎解きはディナーのあとで』**、**三浦しをん『船を編む』**、**百田尚樹『海賊とよばれた男』**、**上橋菜穂子『鹿の王』**、**宮下奈都『羊と鋼の森』**、**恩田陸『蜜蜂と遠雷』**、**辻村深月『かがみの孤城』**、**瀬尾まいこ『そして、バトンは渡された』**、**凪良ゆう『流浪の月』**、**町田そのこ『52ヘルツのクジラたち』**！「うんうん」でしょう？ さて、今回みごとに大賞に選ばれた作品は、**逢坂冬馬（あいさかとうま）『同志少女よ、敵を撃て』**でした！ 昨年度のオススメ本を紹介した前号の図書館通信でいちばん始めに紹介した、せーやさんイチオシの作品です♪ 今号ではまずこの作品を改めて紹介し、そのあとで年度末に入ってきて貸出を待っている本たちを紹介します！

『同志少女よ、敵を撃て』　逢坂冬馬

ウクライナで子どもを殺された母親が兵に志願したというニュースを最近目にしました。歴史は繰り返す。受賞の最大の理由は、いままさに読まれるべき作品だから！ 女性のみで構成された狙撃兵（スナイパー）部隊。ありえない設定のように思われますが、第二次世界大戦の独ソ戦においては、百万人ものソ連の女性が従軍し、多くが自ら兵士として戦ったのです。その中の一人であろう女性狙撃兵の物語。彼女がいかにして百人の命を奪う狙撃手となったか。モスクワ近郊の農村で暮らす、大学進学を控えた 16 歳の少女・セラフィマの幸福な日常が突然奪われる。ドイツ軍に急襲され、母親ばかりか村人が皆殺しにされたのだ。現れた赤軍によって間一髪セラフィマは救われるが、リーダーらしき女性兵士は「戦いたいか、死にたいか」と尋ねてセラフィマの頬を張るのだった。そして、母の遺体と思い出の我が家を燃やしてしまう。敵（かたき）を討つ。母を殺したドイツ兵と、母と村のすべてを焼きつくした女性兵士に。女性兵士はイリーナといい、セラフィマをある場所へと連れて行った。そこは、女性だけの狙撃兵訓練学校。そこには、セラフィマと同じように家族や故郷をナチス・ドイツに奪われた少女たちがいた…。難しいテーマながら、バツグンに面白いエンターテイメント作品！ タイトルの「敵を撃て」の敵とは、いったい何者なのでしょうか。

『はじめての』　島本理生　辻村深月　宮部みゆき　森 絵都

「あなたに贈る、はじめての読書体験」。あの YOASOBI が、４人の人気直木賞作家とコラボレーション！ もちろんこの本に収録された４人の４つの短編小説をもとに楽曲が制作されてゆくわけです。４作品共通のテーマは、「はじめて」。はじめて人を好きになった。はじめて家出をした。はじめて容疑者になった。はじめて告白をした。４つの「はじめて」が書かれますが、それは多くの高校生にとって「はじめて」の直木賞作家の作品との出会いであり、YOASOBI は好きだけど本を読まないキミにとっては「はじめて」の読書体験になるのかもしれません。４人とも折り紙つきの面白い作家なので、ぜひ気に入った作品の著者の別の本も読んでみてください。この本を読書の入口に！

『タラント』　角田光代

『源氏物語』の現代語全訳という大仕事のために小説執筆から離れていた角田さん、実に五年ぶりの新作長編小説！ 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて新聞連載された作品です。パラリンピックのルーツが、戦争犠牲者のリハビリのためのスポーツであったことをご存知でしょうか？ タイトルの「タラント」とは、使命や才能のこと。人生における自分のタラントを見つけられずにいる女性の物語です。「新しいことも責任の伴うことも、今と違うこともしたくないのだった。したくない、というよりも、できないに決まっている、困ったことになるに決まっていると思ってしまう」。下北沢の洋菓子店で働く、40歳を目前にしたみのりが、香川でうどん屋を経営する実家に帰ってきた。不登校になってしまった甥の様子を見にというのは口実で、デパートのスイーツフェアの責任者を任されるのが重荷で、実家に逃げてきたのだった。のんびりとした「今」にとどまるために、祖父が危篤だと嘘をついたのだ。みのりが昔からこうだったわけではない。閉じこめられていると感じていた故郷を飛び出して東京の大学へと進学し、海外ボランティアサークルで熱心に活動し、海外と接点のある出版社で働くかたわら、難民キャンプを訪問するスタディツアーに熱心に参加したりしてきたのだ。だが、軽率な正義感からある大きな失敗をしたことをきっかけに、「熱」を手放してしまったのだった。ジャーナリストやカメラマンとして道を切り開いているかつての仲間と私は違うのだ。「何かを知ろうとすることも、新しい場所に出て行くことも、今まで意識して慎重に避けてきたのだ。自分の意思で」。学校に行かない甥は、戦争で片足を失った無口な祖父を毎日のように訪れていた。みのりが見つけたタラントとは？

☆『オオルリ流星群』　伊予原 新

『月まで三キロ』『八月の銀の雪』で、科学の感動が人生を明るくする短篇小説を書いた著者の最高傑作！「思い出と呼べるのは、あの夏だけだよ」。あの天文好きの「スイ子」こと山際慧子（やまぎわけいこ）が、故郷に帰ってきているという。自分たち秦野（はだの）西高校でただひとり、国立理工系大学の最難関である東都工科大学の天文学科に現役合格し、大学院の博士課程まで進み、国立天文台の研究員になったスイ子が。彼女はあの輝ける高校最後の夏のメンバーのひとりだった。空き缶一万本以上を使って青い鳥・オオルリを描き出し、校舎の壁に吊り下ろした巨大なタペストリーを文化祭のために制作した六人の。当時は高校生だったメンバーも、いまや 45 歳だ。親父の薬局を継いだ自分は近くにできた大手チェーンのドラッグストアに追い詰められ、ＴＶ制作会社を辞めてしまった修は弁護士をめざしていて、機械メーカーで心を壊した和也に至っては実家にひきこもってもう三年になる。「みんな、同じだ。こんなはずではなかった。なんでこうなってしまったのか。ときにそんなため息をつきながら、四十五歳を懸命に生きている。十八歳の時に思い描いていた人生とは、まるで違う日々を」。スイ子もまた国立天文台をクビになっていた。なんと手作りで小さな天文台をつくろうと故郷に帰ってきたのだった。市販の小型望遠鏡によって太陽系の果て極小の天体を発見しようというのだ。スイ子の夢の実現のために、あのときのメンツが再結集する。あの夏を超える夏を迎えるために。

『ミーツ・ザ・ワールド』　金原ひとみ

27 歳銀行員の由嘉里はガチオタの腐女子だ。焼肉擬人化マンガ（焼肉の部位がそれぞれ性格づけられイケメンに擬人化されてＢＬ展開する！）『ミート・イズ・マイン』をこよなく愛している。現実の男とつきあったことはない。そんな彼女だが孤独を解消したい世間に一人前と認められたいみんなしてるしと婚活に目覚め、人生二度目の合コンに参加するが撃沈。夜の歌舞伎町で酔い潰れているところを美しいキャバ嬢・ライに拾われ、「あなたみたいになりたかった。あなたみたいに生きたかった」と告白して思い切り嘔吐した。彼女の部屋に連れて行かれるとこれがとんでもないゴミ屋敷で、ライは死にたいと思っている女の子だった。現実がどんなに楽しくても充実していても死ぬのだという。ライの汚部屋を片づけて、由嘉里はライと同居生活を始めることになる。「生まれてこのかた傍観者で観察者で、現実に１ミリだって触れたことはない」由嘉里は、ライと出会ったことで容赦のない現実へと飛び込んでいくのだが…。

『旅する練習』　乗代雄介

「どうやったらサッカーをするために生まれた人間になれる？」芥川賞候補作にして、三島由紀夫賞、坪田譲治文学賞をW受賞！サッカーとオムライスの大好きな小６の少女・亜美（あび）が、伯父である小説家の「私」に頼みごとをする。鹿島の合宿場に置いてあった本があまりに面白くて持って帰ってきてしまったので、それを返すのに同行してほしいと。2020 年３月。卒業式が終わったら、鹿島アントラーズの試合を見に行くついでに本を返しに行こうとしていたところ、新型コロナウイルスの拡大で学校もクラブもなくなってしまい、宿題とストレスばかりがたまっていく亜美に、私は鹿島の合宿所まで歩いて行こうと提案する。日記の宿題に悩んでいた亜美は二つ返事で「行く！」と喜ぶ。旅の条件は、私が風景描写の練習をしているあいだ、リフティングの練習をしながら待つこと。二人だけの数日がかりの旅が始まった。私は書き、亜美はリフティングの記録を更新し、旅をしながらの「練習」が重ねられていく。新しい出会いと別れも経験して、亜美は確実に成長していくのだったが…。「この旅のおかげでそれがわかったの。本当に大切なことを見つけて、それに自分を合わせて生きるのって、すっごく楽しい」。

『大人も知らない？ ふしぎ現象事典』

「ふしぎ現象」研究会 編　ヨシタケシンスケ イラスト

『りんごかもしれない』(2013)、**『りゆうがあります』**(2015)、**『もうぬげない』**(2016)、**『なつみはなんにでもなれる』**(2017)、**『おしっこちょっぴりもれたろう』**(2018)、**『あつかったら ぬげばいい』**(2020)、**『あんなにあんなに』**(2021)と、なんと絵本屋さん大賞を７度も受賞し、本校でも超人気（コーナーあり！）のヨシタケさんがイラスト！ たとえば、「押すなよ！」と言われると押したくなる、禁止されると余計にやりたくなる現象を何と呼ぶか知っていますか？「カリギュラ効果」といいます。ヤンキーが雨に濡れた子犬を抱きかかえるのを見てキュンとなるのは？「ゲインロス効果」。このように、「あ～あれね！」とみんな知っているのに、その名前を知らないあの現象の名前を紹介したのがこの本！ あの曲が無限脳内再生、テストの前日に部屋の掃除がしたくなる、本屋に行くとトイレに行きたくなる…。みんな名前がついてるんです！ タメになって面白い本！

――――図書館のたくさんの「ゆめかわいらしいものたち」は、せーやさんが買って集めたのではなく、「ぼくも仲間に入れてくださいな」と集まってきて、こんなにも増えたのです。みんな友だちだよ♪ では、図書館で。